

第 70 回未来医療セミナー

特異的癌画像診断法は、がん細胞特異的治療へと進化しうるか？

2012.8.21 18:00~19:00

大阪大学医学部講義棟 B 講堂

Chief scientist
Molecular Imaging Program
NCI/NIH
小林 久隆



より特異的な癌イメージングは、より正確な治療を可能にし、さらに超特異的癌治療は、癌に対しては強力でありながら、患者の体に対してはやさしい治療になりうるはずである。放射線科医として、イメージング科学を追い求める研究者として、さらなる「病気に厳しく、患者の体に優しい」診断・治療方法の開発が、究極の目標である。この講演では、私たちの研究室で行ってきた次世代の生体イメージング方法論、さらに造影薬剤設計理論と実際の利用法について、薬剤認可の現状も考慮に入れた現在の方向性を解説したい。加えて、昨年新たに開発した次世代のイメージングの新たな進化形である、超特異的癌治療「近赤外光線癌治療：Photoimmunotherapy」の開発コンセプトとその実際の応用についても触れたい。

主催：未来医療交流会
後援：文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラム
大阪大学「TR 実践のための戦略的高機能拠点整備」
厚生労働省早期・探索的臨床試験拠点整備事業
大阪大学医学部附属病院未来医療センター
大阪大学臨床医工学融合研究教育センター

連絡先：未来医療交流会（大阪大学医学部附属病院未来医療センター内）
Tel: 06-6879-6557, 6551, Fax: 06-6879-6538
E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

